

2 事前調査の方法

2-2 既存建築物の診断方法

2) 胴縁材保持力チェック試験

- 胴縁材保持力チェック試験は、既存の建物にサイディングを施工するのに十分な耐力があるかを確認するもので、実際の施工時に使用するビス（胴縁材の留付ビス）と木胴縁を、建物の土台・柱に留め付け専用の測定器で試験し構造材の保持力を測定します。
- 判定基準値は1000N〔約102kgf〕です。

■ 胴縁材保持力チェック試験実施部位

- 胴縁材保持力チェック試験は、下記の部位で実施してください。
 - ・建物北面の出隅部と、中央部の土台と各土台から300mm上の柱。
 - ・老朽度診断調査（P26～27）で外壁の部位（6～9）が不合格となった付近の土台と柱。

